

課題名	120 果樹枝幹病害の生態と防除	分類	①		
	イチジクの胴枯病の薬剤防除法				
試験研究年次	61～1年(完了)				
I 目的					
イチジクの胴枯病の薬剤防除法を確立する。					
II 試験方法					
1 試験場所 : 行橋市現地一般農家圃場					
2 供試品種・樹齢 : '蓬萊柿' 2年生苗及び5年生移植樹(昭和61年2月新植)					
3 試験方法 : 昭和61年から平成1年まで毎年、原則として4月上旬に苗の地際部に薬剤を塗布した。					
4 試験区の構成					
	区	61年	62年	63年	1年
	1	T.P	T.P	T.P	T.P
	2	無処理	T.W	T.W	T.W
	3	無処理	無処理	無処理	無処理
注) TP: トップジンMペースト2倍(61年は原液)塗布 TW: トップジンM水和剤50倍加用水性塗料塗布					
5. 試験の規模: 1区6～16樹					
6. 調査月日・方法: 昭和61年10月12日、昭和63年3月10日、同年10月25日、及び平成1年10月18日に発病状況と塗布剤の付着状況を調査した。					
III 主要成果の概要					
新植時より毎年4月頃、地際部にトップジンMペーストまたはトップジンM水和剤50倍を加用した水性塗料を塗布することによりイチジク胴枯病の発病を予防できる。					

IV 主要成果の具体的データ

第1表 薬剤の塗布によるイチジク胴枯病の予防効果

区	調査 樹数	発病樹数			
		61年	62年	63年	1年
1	16	0	0	0	0
2	7	0	0	0	0
3	6	0	0	1	3

第2表 塗布剤の付着状況

区	61年	62年	63年	1年
1	A	A	A	A
2	-	B	B	A
3	-	-	-	-

注) A: 塗布剤が幹によく付着している。
B: 塗布剤が一部剥離している。

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 イチジク胴枯病防除のための資料となる。
- 2 水性塗料はトップジンMペーストに比べ、早く剥離することがあるので、秋期に再度塗布する。
- 3 発病樹の治癒は困難であるので発病の予防を徹底する。

VI 今後の研究上の問題点

発病樹の治癒法の開発

VII 資料名

昭和63年度、元年度 福岡県農業総合試験場 生産環境研究所 果樹病虫害に関する
試験成績書